

# 設立趣旨書

特定非営利活動法人  
吹田フットボールネットワーク  
設立代表者 四國 光

‘FIFAワールドカップ‘や‘オリンピック‘を引き合いに出すまでもなく、スポーツはプレーヤーを全人的に成長させ、見る人、応援する人、参加する人に限りない喜びと感動をもたらし、連帯の精神を育みます。スポーツは人間力を創ります。

しかし、昨今の家庭、地域、学校の環境は著しく変化しており、その変化が子供たちからスポーツを楽しむ機会を奪っているのが現状ではないでしょうか。特に学校現場においては、少子化による生徒数の減少や受験偏重主義による部活部員の減少、および教員の高齢化や多忙化による部活顧問の不足、等が原因となり、部活自身が成り立たない現象も頻発しております。

このような状況にあって、子供たちのスポーツが学校の枠内のみ限定されるのではなく、学校を母体としながらも、学校を超えた、新しい広域のスポーツ環境作りこそが、今求められているのではないのでしょうか。

すなわち、学校の協力のもと、学校の施設を有効活用しながら、学校の生徒に限らず、広く地域の子供達皆がその場でプレーを楽しみ、そして、子供の親達を始めとし、地域の大人たち、スポーツ関係者が、連携してその活動を組織化し運営する。そして、そのような連携活動を通じて、地域を活性化し、地域で子供たちの心身の健全な育成を図る。ひいては、その組織が、将来的に卒業生やクラブOBが、指導者やプレーヤーとして戻って来ることの出来る受け皿となり、また新たな循環を作り出してゆく・・・

今こそ、そのような、スポーツを核として、地域の新しい‘ネットワーク作り‘を促進する組織の創出が望まれているのではないのでしょうか。

私たちは、サッカーを主体とするスポーツ諸活動を通じて、子供から大人までが、学校の場を母体としながらも、学校の枠を超え、地域の財産である‘人と施設と情報‘を最大限に結びつけ(‘ネットワーク‘)、みんなでスポーツを楽しみ、子供達を育成し、喜びを分かち合う、そのような地域クラブの先進的な‘モデルケース‘作りを目指したいと思えます。

また、将来的には地域に根ざした‘多代的型クラブ‘として、更なる地域のスポーツ環境の充実とスポーツ文化の向上に寄与したいと考えます。

以上の理念のもとに、現在フットボールクラブとして活発に活動中である、‘吹田JFC千里丘‘を母体として、‘特定非営利活動法人 吹田フットボールネットワーク‘設立の決意に至った次第です。

現在‘吹田JFC千里丘‘は活発に活動しておりますが、NPO法人化することにより、

①法に則った法人運営と情報公開によって、より強固な組織基盤が確立できる

②個人ではなく法人名で契約行為の主体となれる

③より社会的認知、信用が得られ、広く各所からの支援を得やすくなる

等の理由から、クラブが今後とも、より持続的に発展する基盤を確保するために、法人化したいと考えております。

#### <法人設立準備に至った経緯>

吹田市立千里丘中学サッカー部は、2001年8月の全国大会において、準優勝という画期的な好成績を収めたにも関わらず、翌年の春は少子化による生徒数の減少等の影響を受け、チームを編成するために必要な生徒が十分に集まらず、サッカーを楽しみたい子供たちにサッカーをプレーする機会を提供できないという状態に陥りました。

このような状況を打開するために、地元の教師やスポーツ指導者が協力し合い、吹田市サッカー連盟の指導と協力を得ながら、吹田市で初めて、学校体育を母体とし、社会スポーツとの融合を目指す、新しい地域スポーツクラブのあり方を模索する一つの先進モデルケースとして、2002年4月、‘吹田JFC千里丘‘が誕生しました。

‘吹田JFC千里丘‘においては、吹田市立千里丘中学校や周辺地域の教師及び地元のサッカー指導者がボランティアとしてチームを指導するなか、サッカーを通じて、地域で子供たちを育てる、という理念の下、‘吹田JFC千里丘保護者会‘が設立され、これによって、サッカーの技術的指導は監督、コーチが担当し、クラブの運営は‘保護者会‘が担当する、という地域の両輪体制が確立されました。

更に、より公益性を求め、地域のスポーツ文化向上への貢献を目指すため、2003年にNPO法人化に向けた‘発起人会‘が設立され、また、2004年4月には、より広域にクラブおよびスポーツ情報を発信するため、公式ホームページが開設されました。そして、2004年9月、‘保護者会‘総会において、クラブの法人化が指導者、保護者、後援会、他関係者全会一致の賛同を得、NPO法人化のための本格的申請準備に入りました。

特定非営利活動法人 吹田フットボールネットワーク

設立趣旨書